



ガガブタの花



ジュンサイ

特集

ガガベエの

ため池

探検

人と歩む歴史と未来

農村では、昔から農業用の水を確保するために、「ため池」をつくってきました。そうした「ため池」を中心とした里山の風景は、長くつづいてきた人と自然とのかかわりによって、できあがったものです。しかし、一見安定して見えるこのような風景も、最近ではさまざまな問題をかかえ変化しつつあります。

今回のギャラリー展では、「ため池」の持つさまざまな魅力をつたえるとともに、もう一度「ため池」を中心とした里山のあり方、人と自然の新たなかかわりかたを、みなさんと考えてみたいと思います。

ため池の生き物たち



ため池は、人が農業用の水を確保することを目的に造ったもので、ため池をめぐる自然は、いわば二次的な自然です。

しかし、そうした人工的な環境を利用する生物が徐々に増え、ため池の周囲にある田んぼ、畑、水路、雑木林といった多様な環境を巧みに利用し、人々の活動と調和しながら、長い時間のなかで独特の生態系を作り上げてきました。

ただ、近年になって、ため池の減少、管理放棄などとともに、外来種の侵入などによって、その環境は大きく変わっています。



ハスの花

このコーナーでは、滋賀県内のおもなため池における生物調査の結果を、静止画、動画、レプリカ、標本、細密画といった多様な表現方法を使ってお見せします。

ため池の歴史と文化



全国的なため池の分布をみると、近畿や瀬戸内地方に多くみられます。

ホトケドジョウ



カスミサンショウウオ



専門員 杉谷博隆 (農村計画)



日本最大のため池・満濃池（香川県）
約1300年前に讃岐守道守朝臣によって
築かれ、平安初期に空海が今日の池の原形
をかたちづくりしました。



神田溜（長浜市）の模型
復元された神田溜の木樋。模型により、古いた
め池の取水施設の仕組みが理解できます。

「満濃杵搦之図」

（平尾英雄氏所蔵 香川県歴史博物館保管）
江戸時代におこなわれた満濃池の改修のようすを描いています。



狭山池（大阪府大阪狭山市）
「古事記」にも記述がある日本最古のため
池。飛鳥時代の616年頃に誕生しました。

ひょうたんよい

石を使いため池の堤をつき固める作業。東近
江市大澤町の人々によって再現されました。



これらの地域は降水量が少なく、し
ばしばばつに見舞われ、人々が水
の確保に腐心（ふしん）していたことから、積
極的にため池築造に取り組んできた
とされています。

日本最古のため池「狭山池」（大阪府
大阪狭山市）、日本最大のため池「満
濃池」（香川県満濃町）は、機械のな
い時代に多くの人々の手によって造
られ、たび重なる提体の決壊にたい
して修復を繰り返してきました。そ
こでは、池を維持する「池普請」と呼
ばれる作業が営々と続けられ、ため
池は貴重な先人たちからの遺産とし
て現代へと引き継がれてきたのです。

こうした全国的に有名なため池だ
けでなく、滋賀県内のため池にもそ
れぞれの歴史、干ばつに苦しんだ人々
の思いが、さまざまな形で残されて
います。

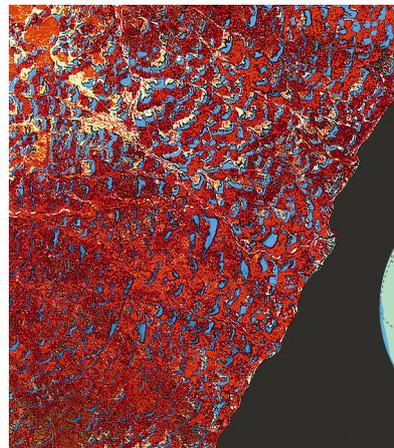
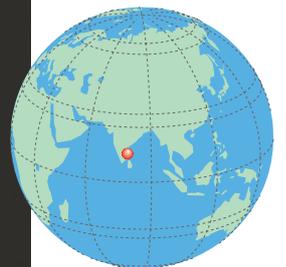
このコーナーでは、ため池の歴史
や文化を先人たちの苦労や、そこか
ら生まれた水を大切に使うとともに
公平に分配する工夫、伝統的なため
池における漁法の紹介など、人との
関係という視点から見た展示を見て
いただきたいと思います。

世界のため池事情



ため池は、日本だけでなくアジア
モンsoon地域の水田灌漑農業に対
して大きな役割を果たしてきました。
そのルーツは、南インド・スリラン
カにあるといわれ、最初のため池の
築造は紀元前6世紀にまでさかのぼ

インド南部のため池群
インドには約20万8000
カ所のため池があるといわ
れています。



ることができません。

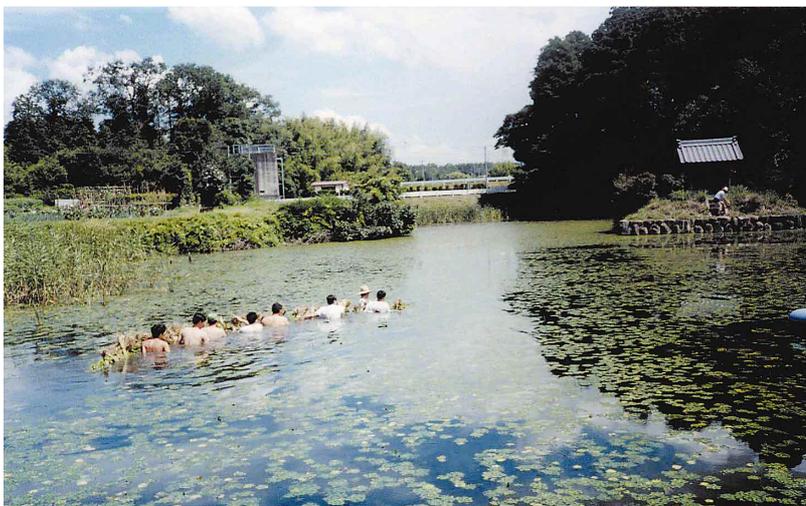
このコーナーでは、2500年の歴
史を誇るこれらの地域におけるため池、
さらには、ため池灌漑農業の普及を目
指して京都大学によって試験研究用
に造られた東北タイおよび西アフリカの
ガーナのため池を紹介します。

ため池をとりまく課題



先人たちの多大な労苦によって造ら
れたため池も、近年その数は減少の一
途をたどっています。

その要因としては、都市化による農
地の減少や中山間地などの条件不利
地における耕作放棄による農業用水量
の減少、大規模な農業水利施設建設に
ともなう小規模ため池の統廃合などが
考えられます。また、ゴミの不法投棄



「平尾溜（東近江市）で行なわれた植樹作業
小学生も参加して、ドングリの苗木を植えました。

「弁天溜」(蒲生町、H18.1.1より東近江市)
で行なわれている水無月祭り
蛇に見立てたチガヤを、池の真ん中にある弁
財天を祀った祠に若者たちが巻き付けてくる。
無病息災を願い行なわれる農耕と深く結びつ
いた神事。



琵琶湖博物館ギャラリー展示

タガベエの ため池探検

12月23日(金・祝)～2月26日(日)
場所：博物館企画展示室

マスコットキャラクター 「タガベエ」について

今回のギャラリー展で使用しているマスコットキャラクター「タガベエ」は、イラストレーターの安齋肇さんが「タガメ」をモチーフにデザインして下さいました。

「タガメ」は日本最大の肉食性の水生昆虫で、以前は水田などでよく見られていました。しかし、今ではすっかり数が減り、環境省編日本レッドデータブックでも「絶滅危惧 類」に指定されている貴重な昆虫です。

また、「タガメ」は水田、水路、ため池、雑木林といったいわば「里山」的な環境をその成育場所としており、今回のギャラリー展のテーマ「ため池を中心とした里山環境の保全を考える」に最適なシンボリックな存在であると言えます。

このことから、今回のギャラリー展のマスコットキャラクターとして選定しました。「タガベエ」の案内のもと、来館者に上記のテーマと一緒に考えていただきたいと考えています。



滋賀県には約1600個ものため池が存在し、農地を潤す重要な水源として利用されています。また、ため池は重要な歴史的資産であると同時に、洪水調整や防火用水、豊かな生態系の保全、良好な景観の形成、文化の伝承、親水空間の提供など、さまざまな機能(多面的機能)を持っています。

このような先人たちからの素晴らしい贈り物を、私たちはこれからも守つ

ため池保全に向けて



移入生物の持ち込みなど、ため池の生態系にも危機の手が及び寄りつつあります。管理放棄されたため池を放置すれば、堤体の決壊による災害が発生する危険さえあるのです。

こうしたため池を取り巻くいろいろな問題は、ため池やその周辺に広がる農地や雑木林の持つ価値を、私たちにもう一度見直すことを問いかけています。

今回のギャラリー展のため、イラストレーター安齋肇さんにマスコットキャラクターの「タガベエ」をデザインしていただきました。この「タガベエ」と一緒に、ため池の魅力発見の探検に出かけましょう。みなさんのお越しを「タガベエ」と琵琶湖博物館企画展示室でお待ちしております。

ていく必要があるのではないのでしょうか。そのためには、現在まで管理に携わってきた農家の方々だけでなく、より広範な人々の参加による保全活動のひろがりが必要になってきました。

最近では、そうした活動を支える行政の各種政策も充実されつつあり、もう一度ため池を中心とした里山に人のにぎわいを取り戻すことを目的とした新しい政策も、このコーナーでは紹介させていただきます。また、滋賀県の各地で始まりつつある保全活動実践者からのメッセージにもぜひ耳をかたむけてみてください。